

## 着物と着付けは 一生の宝物

八代伝統芸能衣装方

小嶋 授子 さん (鼠蔵町)



ユネスコ無形文化遺産登録へ向け盛り上がりを見せる九州三大祭「八代妙見祭」。その神幸行事を裏方で支えているのが、小嶋授子さんが会長を務める八代伝統芸能衣装方だ。これまで10年にわたりボランティア活動としてお上り行列の衣装着付けを担当してきた。

お上り行列は、1.5kmにも及ぶ長さになる。「着付けは時間との勝負です。私たちに遅れは許されません」。各セクションは約1時間で着付けを終わらせ、お上り行列の出発を見守るそうだ。

小嶋さんは結婚を機に着物と出会った。日常生活の中で着物を着ることが多く、徐々に着物への興味が深まっていく中で転機が訪れる。夫の転勤で山鹿に引越をしたときに、着付け講習生徒募集のチラシが目にとまり、迷わず受講した。「夫にはとても感謝している。このきっかけがなければ着付けの先生にはなっていなかったかもしれない」と当時を振り返る。

昭和48年、着物着付けの資格を取得。その後、夫の転勤で阿蘇に引っ越すと、そこで10年間にわたり着付け教室を開催した。「着付けの先生として、生徒といっしょになって勉強して腕を磨いた。1日に6時間以上講習することが多かったが、今で



▲妙見祭衣装方着付け講習会で手本を披露する小嶋授子さん(中央)

は楽しい思い出」と話す。この経験を生かし八代に戻ってからも自宅で着付け教室を主宰する傍ら、サンライフ八代やフレンドリーやつしろでも教室を開催してきた。

妙見祭の衣装着付けに携わるようになったのは10年前から。「自分の持っている特技で祭りに協力したい」。着付けの資格を持っている仲間と話し合っ

て決めた。衣装着付けに大事なのが人材の確保だ。毎月1回、妙見祭衣装方着付け講習会を開催し、後進の指導にも熱心に取り組む。受講生もはじめての人からベテランの人までさまざまだが、「最近

は着付けが上手な人が多くなってきた」と実感している。妙見祭のお上り行列は、獅子から飾馬まで40の出し物におよそ1700人が参加し、その衣装は出し物によって全て違う。この着付けをする衣装方スタッフは約30人だ。「衣装の種類が多いのでグループを作って専門的に学び、短時間で着崩れしないように着付けることを心がけている」と小嶋さん。今年の祭りが終わると同時に来年に向けての活動が始まるため、1年間が早く感じるそうだ。

また、妙見祭だけでなく、くま川祭りではボランティアで浴衣の着付けをするなど、その活動範囲は広く、健康管理にも気をつけている。

「基礎や基本を大事にしつつ新しいアイデアを取り入れることも大事。短時間で美しく着ぐれしない工夫を日々考えている」。着物と着付けは一生の宝物と語る小嶋さんの探究心は止まらない。



2016.NOVEMBER

No.143

- 3 特集 八代妙見祭
- 8 保育園の入園申し込み
- 10 幼稚園児募集
- 11 児童虐待防止推進月間
- 12 生活習慣病予防
- 13 ふるさと納税
- 14 暮らしの情報
- 16 市民カレンダー
- 18 暮らしの情報
- 27 広告
- 28 まちのわだい
- 31 伝言板
- 32 妙見宮祭礼絵巻
- 八神純子コンサート

### 今月の表紙



10月15日、全国の花火師が技を競う「第29回やつしろ全国花火競技大会」が球磨川河川緑地で行われ、約30万人が訪れました。

今年は熊本地震からの復興を願い、例年より2000発多い約14000発が打ち上げられ、秋の夜空を彩りました。